

1年間のお札と4月からの学校運営に関するお知らせ

保護者の皆様方には、1年間、本校の教育活動に対しまして、多大なるご理解・ご協力を賜り、誠にありがとうございました。14日に3年生が立派に卒業していきました。その後、本日まで1・2年生だけでの学校生活でしたが、子どもたちは進級に向けて、授業・生徒会活動・部活動等のあらゆる面において、1年間を締めくくるために頑張っていました。先程の修了式では、それぞれの学年の代表者に「1年間、よく頑張りました」という気持ちを込めて、「おめでとう」の言葉を添え、修了証書を手渡したところです。本日の子どもたちの堂々とした姿からも、1年間の成長を感じることができ、喜びを感じています。また、子どもたちには次年度への期待を込めて、式辞で次のような話をしました。

今年度の最後に2つの話をしたいと思います。1つ目は挨拶のことです。皆さんの70%以上の方が、「いつでも、誰にでも大きな声での挨拶ができる」ようになることを重点課題の1つにしていました。3月に行った調査の結果は何%だったと思いますか？107人中、「自分から誰にでも大きな声で挨拶をすることができます」と答えた人が46人、つまり43%、「相手から声をかけられたら、大きな声で挨拶を返すことができる」と答えた人が15人、つまり14%、厳しく判断すれば43%、妥協すれば57%でした。この数字を皆さんはどう思いますか？…気持ちの良い挨拶をしてくれる人がいる半面、「声が小さくて聞こえない」や「反応するだけで、口から声が出ていない」、「横を向いていると素通りする」という残念な人が少なからずいます。自分はしたつもりでも、相手に聞こえていない挨拶はしたことにはなりません。そこで、4月から「あ：明るく、い：いつ何時も、さ：先に、つ：ついでに一言」を意識して、挨拶してみたらどうでしょうか？…大きな声での挨拶を重点課題の1つにして次は3年目。ぜひ達成したいと考えています。2つ目は、来年度の学校生活において意識して身に付けてほしい力のことです。近年のA.I.を始めとする技術革新による加速度的な社会の変化だけではなく、新型コロナウイルス感染症の拡大や、相次ぐ自然災害の発生など、私たちは今これまでに人類が経験したことのない未知の世界で暮らしており、現代はこれまでの方法論が通用しない予測困難な時代といわれています。このような時代を象徴して、「Volatility（変動性）」「Uncertainty（不確実性）」「Complexity（複雑性）」「Ambiguity（曖昧性）」という4つの英単語の頭文字を取った造語で、「VUCA（ブーカ）」の時代と呼んでいます。このような、未経験で先の読めない不透明な時代を生きなければならない皆さんに求められているのは、次の4つの力です。①Vision：自分が向かうべき方向、つまり夢や目標。②Education：主体的な教育力。③Dialogue：多様な考え方をもつ人との関わり。④Action：行動力、です。4月から、皆さんにこの4つの力を身に付けてもらうことを意識した教育活動を展開していくと考えています。この4つの力を身に付け、それぞれが次のステージに進めるよう、4月からもしっかりと頑張ってください。

さて、学校では今年度も様々な視点から教育活動を評価し、成果と課題を確認しながら、より良い仁尾中学校になることを願い取り組んで参りました。つきましては、4月（次年度）から以下の点につきまして、学校運営における変更を実施しますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

- 運動会を5/23（金）の午前中に実施し、給食後に片付け・振り返りを行ってから下校する（部活動は実施可能）形で実施してみて審議する。
- 合唱コンクールを10/17（金）の午前中に実施し、給食後に片付け・振り返りを行ってから下校するか、午後から芸術鑑賞を企画する（部活動は実施可能）形で実施してみて、審議する。
- 資源回収は現在再調整中。（場所等、詳細も今後見直す予定です）
- 父母ヶ浜ボランティア清掃は、生徒会役員が主催する行事として、今後も引き続き実施する。次回は5月末に実施する予定。
- 6・7・9月の部活動は、18時完全下校（延長なし）とする。
- 保護者の押印欄を極力廃止する。
- 生徒のケーブルビズ（6月中旬から9月末までは、ポロシャツ（上）と体操服の短パン（下）での登下校）を認める。
- オープンスクールへの積極的な参加を呼びかけることで、私立高校の説明会をやめる。それ以外は現状の形で継続する。
- 生徒は7時30分～8時までに登校する。（生徒昇降口は7時30分解錠）
- テスト期間中に質問教室等の時間を積極的に確保する。